

いつかの十川家のベランダ。

父親が紙コップを手にやってくる。

向いの家のベランダを見すえ、その紙コップを口にあて、静かに喋りはじめる。

「聞こえるか。おーい。…おーい。…聞こえるか。聞こえるか。」

懐かしそうなその表情はいつしか哀しさに溢れ、その声は慟哭となる。

「聞こえてるか…。おーい！おーい！！」

紙コップは糸電話のようで…しかし底から出ている糸の先は切れている。

どこにも、誰にも繋がっていない。

喋っても喋ってもその声は、どこにも、誰にも届かない。

父親の後ろに、学生服の息子が見える…同じように糸電話を口にあて笑顔で話している。

お互い糸電話を口に行っている父親には、その声は聞こえない。

「…もしもし。」

ただただ糸電話を口にあて、届かない想いに涙を浮かべる父親。

時間は過ぎ、場所も代わり…今現在の、十川家の向かいの家のベランダ。

奥の方の片隅には、使い古されたキャンプ道具や不用品がかためて置かれている。

テントらしきもの、クーラーボックス、寝袋、マット、段ボール。

手前には、キャンプ用の小さい椅子が並べて二つ置かれている。

右奥からは廊下からベランダに続く扉、その前にはビニールプールが広げられている。

そのビニールプールには膝までストラックスをまくり上げた男が、驚いたように突っ立っている。

その男の目線の先には、学生服姿の、あおい。

お互いに固まっている…。

早乙女 …すみません…

あおい …

早乙女 違うねん。

あおい  
：

早乙女 違うんです。うん。違うって言うか、今、下あれやね、人いっぱい。上行って上行ってって言われて。それで。

あおい  
：はい

早乙女 そしたら、(プールが)あつて。懐かしくて。

あおい ハハッ！懐かしいっすね。

早乙女 ね??で、ちよつと気分盛り上がって。バシヤーンって。

あおい え、水

早乙女 入ってない入ってない水は入ってない。気持ち的に。

あおい ああ

早乙女 ほんと、バシヤーンって。うん。そしたら…(あおいが)おって。

あおい ずっと、見えました。

早乙女 いつから?

あおい ズボンあげて靴下脱ぐところから。

早乙女 不思議やね。何かやってまうよね。習慣?お行儀?育ち、みたいな。

あおい です、かね。ハハッ

早乙女 そう。それで、びっくりしたところ。今。

あおい はい。こちら、僕も。ハハッ。

その時、一人の男性が陽気にベランダに…あおいはとっさに荷物の陰に隠れる。

融 どうも〜!どうもどうも〜!

早乙女 …どうも

融 (ちよつと早乙女を見つめてから) お久しぶりで〜!

早乙女 いや、はじめましてだ〜!

融 あ、この

早乙女 者ではなくてですな…あ、下で誰にも?あ、ちなみにコレ(プール)は衝動と言いますか…

融 …あ、はい、そうか、はい

急にテンションが落ちた様子で、融はベランダから出て行ってしまふ。

早乙女 え…?(あおいに)え???

あおい (隠れていたところから出てきながら) あれ…?

早乙女 ま、えつか。えつと…お父さんとか、お母さんは下おった?

あおい いません

早乙女 そつか。あ、でもこれどうぞ

プールからでて…無意識に足をふるって…紙袋からうちわを取出す早乙女。

うちわには「早乙女工務店」と書かれている。

早乙女の足をふるう行為に思わずあおい、プールに走り寄り確かめるように、覗き込む。

早乙女 今日のね、花火のね、うん。それで、プールを覗くあおいに あれ、どうしたん?

あおい いや…

早乙女 水なんて入ってないよ。

あおい あ…

早乙女 言うたやん、さっき入ってないって

あおい …でしたよね

早乙女 そうそう、今日のね、花火。10年ぶりのね、久しぶり。その花火のうちわ。記念の。これ(渡す)

あおい ありがとうございます。

早乙女 ここから見えるんやんね。ええね、その準備…かな?

その時、階下から声が聞こえる。

トム すみませーん

早乙女 …誰か来たね。

あおい はい

早乙女 今日はたくさん来る日、やっぱりここから見えるから、それで。

あおい それもあるし、明日この家の人の法事、法要みたいなのがあった。

早乙女 めっちゃいい!

あおい え

早乙女 ううん、よくない。良いつて言うのは、あれ。言葉の…さぞ。

あおい あや

早乙女 …誰が?

あおい 別に。

早乙女 そつか…じゃあやつぱり家の人にあれやね、ちゃんと言わな。これは…皆忙しそうやけど。

あおい 親戚も今日から集まってるみたいで。それに多分明日の準備とか、色々で

早乙女 そつかそつか…うん、ちよつとゴメンね。会社に（スマホを出しながら）

あおい はい…

嬉しそうに出ていく早乙女を見送るあおい。

廊下では、やってきたサングラスをした若い男、トムと早乙女がすれ違う。

トム えっと

早乙女 あ、今日ね

トム （サングラスを外しながら）待って、当てるから。

早乙女 いや、ちよつと今…（スマホを指して）すみません

トム どうぞ。（またサングラスをして）

電話中の早乙女を残し、トムがベランダに入ってくる。

トム えっと…

あおい （また隠れようとしたが間に合わず）あ…

トム （サングラスを外しながら）待って。当てるから。

あおい え

トム え〜つと。…津喜子叔母ちゃんこの？…じゃあなくて、すすむ叔父ちゃん。いや、みのある叔父ちゃんか、志奈子叔母ちゃんか、どっちか？…か、今のどれか。

あおい （首を振る）

トム え？でもさ、逆に俺わかるん？そんなん言うんやったら。

あおい え

トム 俺だけって不公平やん。そっちはわかるんかって話。今。

あおい （首を振る）

トム 引き分け。

あおい あの…

トム 俺ってさ言葉でわかるやつ？関西離れて10年ちよいやから。もう半分以上関東。それヒントやん

あおい …

トム それでもわからんか。

あおい …すみません

トム 大丈夫、俺そんな気にせえへんし。わからんよ、10年会わんかったら。

あおい …

トム ええやん。別にどうせ親戚やん。くくりは一緒やん。親戚って、な。

あおい …かも

トム あの、さ？（向かい側に見える隣の家を見ながら）隣の、うん…来てたりする？見た？会った？

あおい あ

トム いや、ええねええねん。まだって事やな。また…うん後で。

あおい 隣の

トム 10年ぶりやからさ…。

あおい ああ…

トム 花火になったら来るやろって、お隣さん。さっき下で聞いたんやけどな。

あおい 花火

トム いや、俺が聞いたって言うか、向こうから言うてきたんやけどな、そんな俺関係ないし。別に。ホンマ。

あおい …

トム あの、電話の、廊下の、誰？どの叔父ちゃんの？

あおい あ

トム まって、それも当てるから。

あおい 多分当たらんへんと…

トム ちょっとちょっと〜

あおい だって（早乙女工務店のうちわを見せようとする）

トム まあ、戻ってきてからでええか。

トム、キャンプ用具を探り出す。

トム それより、ええのあった？どれでもどうぞって言うても、古いもんなあ、今のやつちやうし…って言うたら怒られるけど。まあでも気持ちやんな、あげるって言われる、それをもらう。気持ちやん。どっちも。お互い。

あおい …ですな。

トム　　こんなままで（プールを見て）

あおい　懐かしい。

トム　　ああ、そんならっこいの入ってたんやなって思うよな。

あおい　：うん

トム　　今やったら足首やで、完全に。足首。

言いながら、プールに入ろうとするトム…

あおい　靴下、脱がないです？

トム　　水入ってないやん。（入る）

あおい　ですよね、普通。

トム　　ま足首…ちよい上か。まあほぼ足首やな。完全に。まあでもこの時は、これが全部の世界やったんやもんな。

あおい　：あ、うん。そう？

トム　　不思議やな

電話を終えた早乙女がベランダに戻って来る。

早乙女　やっちゃいますよね〜

トム　　え

早乙女　懐かしくて

トム　　いや、そういうのはちよつと違うけど…小さい時の世界って

早乙女　ココの人？

トム　　あ、

早乙女　えっと、僕は

トム　　待って、当てるから。

早乙女　（ささぎってうちわを差し出しながら）早乙女工務店です〜よろしく願いします〜。

トム　　…あれですか、ここのリフォームの？

早乙女　え、リフォームすんの？（ここ）

トム　　はい、あ、建て替えかな。するからいらんもん持って行ってって今日。

早乙女　ああそれで、ベランダにはあれか、こういうグッズをまとめてんねや。

トム　　…親戚ちやうんですね、じゃあ

早乙女 早乙女工務店です〜

トム じゃあ当てようがない。

早乙女 あ、そちらはご親戚同士で？

トム はい(同時に)

あおい いえ(同時に)

トム えっ!!

早乙女 あ、知らんや。あ、ちょっとね、予想より人が多そうなんで一旦書類とか取りに帰ります。もし家の人来たらまた来るって言うといってください。

言いながら、早乙女ベランダから出て行く。

トム そんな絶対当たらんやん。

あおい え

トム 親戚ちやうかつたら

あおい …ごめんさい。

ふと椅子の上に置かれた靴下を発見するあおい。

あおい あ、あの人、靴下…

トム やばいっ

靴下を手に、ベランダの入口へ急ぐトム。

トム スラックスやろ、革靴や。靴下履かんと革靴なんて…

トム、早乙女を追いかけて出て行く。

あおい …。

あおい、少しホツとしたように…またキャンプ用品の方へ戻って荷物を探る。

そこへまた融が…

融 どっぴもどっぴもっ…!

あおい …! (荷物の陰に身を隠す)

融 …まだか。

融、ベランダに入ってくる。

そこから見える景色懐かしそうに少し眺め…一旦廊下にて、また入ってくる。

融 どうもどうも…!

また同じように…

融 …いえいえーい!…わっどうも〜!元氣??

いろんなパターンでベランダに入ってくる練習(?)をしていると…

いち子 ベランダ誰かおんの〜?トム?

トム 今から行くところ!

階下から聞こえて来る、いち子の声に、逃げるように出て行く融。

様子を見ていたあおい、不思議そうに融を見送る。

と、そこへトムが帰ってくる。

トム 間に合った。危ないところやったけど。誰か来た?裏から

あおい …(首を振る)

ヒロミ すみませーん

玄関の方から声が聞こえて来る。

トム お、玄関やな。

トム、ベランダから下を覗く。

トム ああ〜…。

あおい 誰?わかるん?

トム 男。

あおい …

トム …まあ、あれやな、親戚の。誰か。

あおい …。行かんでも？

トム 誰が出るよ

あおい いいな、賑やかで

トム 今日はな。花火やし。明日は…どうなんやろな10年の法要つて暗いもんなん？

あおい さあ

トム 10年やしな。49日とかとはちやうやろ

あおい …かな。

トム ホンマ懐かしいな

言いながら、プールに入ってみるトム。

ちよつと無理やり、小さいプールの中でくつろぐトム。

トム 今やったら、こらうかな、こんな感じ。

あおい (笑う)

トム あれ…(その笑顔を見て何かを思い出しかける)

ヒロミが入口に立っている。

ヒロミ はは

トム は？

ヒロミ 何してんの。(あおいに) な？

あおい (隠れようとしたのを諦め) …ああ

トム ちよつと

ヒロミ 変やし

トム 変ちやうし

ヒロミ 変やん

トム 変ちやうし、試しやし

ヒロミ 試し？何の(あおいに) あ…えつと、僕

トム 待って。当てるから。

ヒロミ え

トム えつと。(プールから出てきながらちよつと足をふる動作)

ヒロミ あはは。水入ってないのにな？

あおい あ、はい。でもやっってしまうかも

トム …津喜子叔母ちゃんとのの？…じゃあなくて、すすむ叔父ちゃん。いや、みのある叔父ちゃんか、志奈子叔母ちゃんか、どっちか？…か、今のどれか。

ヒロミ ブー。全然当たらん。

トム え？でもさ、逆に俺わかるん？そんな言うんやったら。

ヒロミ え

トム 俺だけって不公平やん。そっちはわかるんかって話。

ヒロミ 自分から言うたんやん。

トム お互い様ってことやろ。

ヒロミ そうかな？でもええよ、そんな気にせえへんし。わからんし、10年会わんかったら。

あおい あ…

トム それってどうなん？俺はそうは思わへんけど。親戚やで！？

あおい え、さっき…

ヒロミ でも10年振りやろ？

トム 時間じゃないねん。

ヒロミ ヒロミ。親父がここの六番目かな。まさみの息子。25。

トム ああ…そっちか

ヒロミ …そっちってどっち

トム 頭の中ではもう二者択一まで絞り込んでたから。

ヒロミ …

トム 嘘ちやうし

ヒロミ 何も言うてへんやん。

トム そっちは絞られてないやろ？俺は(サングラスをかける)

ヒロミ わかった！トムや！

あおい トム？

トム え

ヒロミ かつこつけのつとむ！トムって呼んでって

あおい あ、はあ

トム は??何それ。そんなん言うてへんし

ヒロミ 今もう関西ちゃうんやろ?聞いてた聞いてた。やつぱちよいちよい大阪弁やし。

トム なんかこない

ヒロミ でつかないなあく!前(手で身長を)こんなんやったのに。え?トム、今いくつ??

トム 20。

ヒロミ 大学生?

トム …の、前。

ヒロミ え??いや20やったら…あ、浪人?

トム 浪人って言うか、今選んでるとこ。別に入ろうと思っただらどこでも行けたんやけど、それでええんかって、俺が俺に。

ヒロミ だから浪人やろ?

トム …

ヒロミ 覚えてる?ヒロミ、俺?

トム 女みたいな名前って憶えてた。

ヒロミ 別にええけど。よう言われてるし。…えっと自分は?

あおい あ

トム (あおいに) 待つて。(ヒロミに) 当てて。

あおい え、でも…

ヒロミ トムはわかったん?

トム ほほほほ

あおい え

ヒロミ え〜誰や。10年前会ってる?

あおい あ…はい。

トム えっ!!

ヒロミ …知ってるんやろ?

トム いや、その情報はなかったから。おったん?10年前。花火!?

あおい 花火も見たし…

トム えっ、まさか美佐子姉ちゃんのお葬式にも!?

あおい はい

トム 来てた??

あおい はい

トム 親戚ちやうのに!?

ヒロミ え、親戚ちやうん??

トム あ

あおい あ、はい

ヒロミ そりゃわからんやろ。そんなんズルいやん、だましやん。

トム 騙しじゃないし。

ヒロミ 美佐子姉ちゃんの…友達、じゃないよな年齢的に。

トム 美佐子お姉ちゃんて、齢…

ヒロミ 生きてたら…37、8かな。

トム そっか…え、じゃあ

トムとヒロミが、あおいを見て不思議そうに…あおいは話題を変える。

あおい お二人とも10年ぶりに?

ヒロミ まあ…結婚式も親戚全部呼ぶとか少なくなったしな、誰か死んだ時じゃないと会わへんかったって、さっきも下で言うてたわ親父ら。笑って。

あおい 笑って

ヒロミ 今日は、ホラ葬式ちやうし、だから笑うっていうか。

トム みたいなもんやけどな。

ヒロミ 10年祭。

あおい それで

ヒロミ そうそう。

あおい あ…

ベランダの下、裏手を見てあおいが…

あおい ちょっと一回(ベランダから出て行きかける)

ヒロミ えっとそれで自分…

あおい あ、すみません。隣の。

トム えっ隣って、あの…

あおい 十川です。

ヒロミ あくあの兄弟でおった！え、そっか10年前小学生

あおい ……でしたね。

トム あ、あのお姉さん？妹さん？…えつと元気？？

あおい はいっ

トム 花火来るって言うてた？

あおい 楽しみにしてたんで、10年前終わった時から。

トム そ、そっか。

あおい じゃあ

あおい、ブランドから出て行く。

ヒロミ (トムに) 好きなん？

トム はあ！？誰が？？何を？なんで？

ヒロミ いや、さっきの男の子ちやうで、その姉妹。

トム そりゃそーやろ！男の子の方なわけないやんっ

ヒロミ そんなんわからんやん。

トム いやいやいや…

ヒロミがにやにやしているのを見てトムが…。

トム ……え？

ヒロミ 楽しみにしてたん、会えるの？

トム はあ！？

ヒロミ 当たった。

トム 何が？はあ？

ヒロミ ええなく。ええわ。若いって。

トム 自分もそんな齢ちやうやん

ヒロミ 25とかならな、色々あんねん。仕事も、まあ…結婚もせなあかんし

トム せなあかん事はないやろ。

ヒロミ そりゃそうやけど、したいやん

トム 別にまだ俺はそんなん

ヒロミ えっ！好きな人おんのに結婚したくないん！？

トム だから、別に好きとかじゃないから。10年経ってどんなふうになってるかわからんし。

ヒロミ ふーん

トム なに、そっちは彼女とかおんの？

ヒロミ まあ、彼女って言うか…

トム …え

ヒロミ ほんでいつまでプール入ってるん

トム …あ

ヒロミ ちょっと俺も入れてくれよ

トム 狭いやん

ヒロミ ええやん。久しぶりに従弟同士懐かしいやん

トム キモイし

ヒロミ、無理やりプールに。

ヒロミ 座ってみる？

トム キモイって

ヒロミ 立ってたら変やし

トム 座ってても変やろ

ヒロミ、プールに座り込む。

ヒロミ 何か…水入ってないと変な気分やな。ホラ、たまにエレベーターがさ、止まってて動かん時階段みたいにして登るのめっちゃ変な感じせーへん？エレベーターやのにつて。何か今、そんな感じ。

トム エスカレーターやろ。

ヒロミ 何が

トム エレベーター止まってたらそもそも乗れんし

ヒロミ エレベーターって言った？俺。

トム 言うたし、ほんでエレベーターな、最後伸ばすねん

ヒロミ エレベーターって言った？俺

トム … (もう黙る)

ヒロミ 10年祭か美佐子お姉ちゃんの

トム あんま覚えてないねんな正直

ヒロミ 隣の子は覚えているのに

トム いや、だって可愛かったし

ヒロミ そんなに？

トム …

ヒロミ 言えや(水をかけるしぐさ)

トム 何っ

ヒロミ 言えつて(また水をかけるしぐさ)

トム やめろや

ヒロミ 何もないし

トム でも変な感じするやろ

ヒロミ 何もないのにな？

トム (水をかけるしぐさ)するやろ

ヒロミ 全然平気

トム バシヤ

ヒロミ 全然

トム バシヤバシヤ

ヒロミ ふふ

トム 今、瞬きした〜

ヒロミ じゃあ今度トムな(水をかけるしぐさ)…の真似(真似) まだかけてませーん。はい、目えつぶつた〜

二人がじゃれあうように、水を掛け合っている…と、また先ほどの融がベランダ入口に現われ…  
プールの二人の姿を見て、慌ててまたベランダから出て行く。

ヒロミ 誰か来た？

トム さあ

ヒロミ 隙アリ(またかけるしぐさ) ホラやっぱり目えつぶつて〜

トム 今のはナシナシ！誰でもなるわ

ヒロミ 絶対認めへんよな、負けを

いち子がいつの間にか来て、そんな二人を見ている。

いち子 それ見てええやつ？

二人 わっ！！

いち子 あんたらだけ？

ヒロミ そうそう

トム 今二人。あれ？着替えたん？

いち子 (着ている服を整えながら) 変？

二人 別に

いち子 …ちよつとき、夜の買い出し行ってくるから。あんたら待ってるやろ？

ヒロミ 親父らも皆一緒？

いち子 車出してくれるって。これどうぞ

お菓子の入ったカゴをベランダの机に置く。

ヒロミ ありがとう

いち子 お母さんがお菓子持ってけ持ってけ言うて。私はもう「子供ちやうで」言うたけど(プールの二人を見て)子供やな

二人慌ててプールからでる。

トム ちやうちやう、ヒロミが誘って来たんや

ヒロミ そっちが先に入ってたんやん

いち子 気持ち悪。

トム そんなんちやうって

いち子 どっちでもええけど。ほんで、玄関開けたままにしとくから頼むで。

ヒロミ まだあと誰か来るん？

トム お隣さんやろ？

いち子 そうそう、お隣のお父さんは来るけど。後来るかどうかはちよつと…わからんな。

トム えっっ

いち子 何

トム 別に

ヒロミ (トムを冷やかすように) ひひく

トム 何やねん

ヒロミ あ、なんか、今のこの体勢さあれみたいやな…(いち子を挟んで、with B的な)

いち子 いや、ドリカムみたいちゃう？

ヒロミ え？ドリカム二人やん。な？

トム ああ

いち子 : せやな。あ、それと、あの人も来る…融君、わかるかな。松尾さん。

ヒロミ えっ？

トム 誰？

いち子 トムは何にも覚えてないな

トム 10歳やで、しゃーないやん。それにめっちゃ人おったし。

ヒロミ 絶対会ってる。見てるで。美佐子姉ちゃんの、旦那さん。元旦那さん…か。

トム あ…

いち子 喪主やったやろ、挨拶してたん覚えてる？まあ…挨拶なつてなかったけど。

ヒロミ めっちゃ覚えてる。…いち子姉ちゃんのおっちゃんらに抱えられてて

トム それは覚えてる…顔までは…ちよつと自信ないけど

いち子 そうそう。その。融君。

ヒロミ 今どうしてはるん？

いち子 うーん、あんまり知らんねんな。今は年賀状くらいやし。

トム 再婚とかしてないん？

いち子 してない。

トム ずっと好きやねんな、美佐子姉ちゃんの事

いち子 :

ヒロミ 毎回法事とかには来てはんの？

いち子 3年祭までは全部来てた、前の5年祭の時は来られなかったから…うちらも大方7年ぶりやな。今回も来うへんと  
思ってたんだけどな、来るって連絡きて。お父さんらもびつくりしてたわ。しかも今日から来るて。花火。

ヒロミ この家泊まるん？

いち子 駅前のホテル取ってるって。さすがにここは…なあ。別にうちはええけど。

ヒロミ やっぱり10年ぶりの花火やし？

いち子 まあ、あの花火の直後やったからな、美佐子亡くなったん。また見たいって思ったんちゃう？融君も。知らんけど  
トム そうなん？思い出してまうとか、辛いとかじゃないん？

いち子 10年経ったからな。

トム 薄れるってこと

いち子 薄れはせん。薄れるかいな。

いち子、お菓子をひとつ食べる。

ヒロミ 持って来て自分で食べるん。

いち子 やっぱ好きちやうな〜雪の宿。

トム 食べといて

ヒロミ 俺めっちゃ好き

いち子 味覚も変わるんかなって思って。好みは変わらんのかな。

二人 はあ…

いち子 ほんで、お隣さんも来たらよろしく。

トム あ

いち子 十川さんな。まああんたらよりウチの事わかってるけど。

ヒロミ それは大丈夫。トムはお隣さんの事は覚えてるから。

トム ちよつと

いち子 あ、じゃあ息子さん覚えてる？前の花火の時、小学生くらいやったかな。一緒に見てたんやでここ座って。

トム あ、覚えてるって言うか、さっき

いち子 今…高校3年生。トムのちよつと下か。

ヒロミ 同級生になれるかもな

トム おい

いち子 それは無理やな

ヒロミ 下級生になったりして

トム アホか、次は受かるつちゆうねん

いち子 亡くなってん。

二人 え…

いち子 亡くなりはったんよ。一ヶ月前。事故で。

トム いや…え

ヒロミ …ん？

いち子 花火は楽しみにしてたから来るって。

トム えっその子が！？

いち子 こわ！やめて。ちゃうわ、家族家族その家族。だからお隣さんきたら頼むでて言うてるねん。何でその子が来るんよ。

トム え…いや

いち子 まあ、家族にしたらそれでも来て欲しいくらいやろうけどな。

二人 …

ヒロミ 息子さん…何人いてたっけ。

いち子 一人。息子は一人や。

トム 事故…

いち子 学校の帰りにな。かわいそうに。

ヒロミ …制服で？

いち子 聞いてないけど、そうちゃうか。

二人 …

いち子 ほんなら頼むで。

二人 はーい…

いち子 暗っ。ま、明るい話もしてないわな。さっきから。

二人 あ…

いち子 今日、はっき鍋やで〜！

二人 うん

いち子 うそっはっこぎ鍋でこんなアクション薄いつてあり得へん。泣いてる子供も泣き止むのに。

二人 ああ…

いち子 ほなな。

二人 いってらっしやい…

いち子、隣の家を見て固まっているをヒロミにせんべいを渡し、ベランダから出て行く。

…ヒロミ、渡されたせんべいを口に。

トム 美味しい？

ヒロミ 味、せん。

トム 雪の宿味せんとかある？両方あんねんで、甘いとしよっぱい。(ヒロミの手からせんべいを一欠け) …味せん。

二人、せんべいを食べ続ける。

ヒロミ …今、何考えてる？

トム …別に

ヒロミ エリーゼってき、親戚の家でしか食べんくない？

トム 確かに。

ヒロミ でも美味しいよな。

トム うまい。(食べながら) お隣さんってき、こっちはそっちもお隣さんやろ。そっちのお隣かもさっきの

ヒロミ そっち…駐車場やけど。

トム そっか

ヒロミ それに…十川って

トム …言うてたな

ヒロミ あ、ハッピーターンもあるぞ。

トム …気分じゃない。…娘やったとか

ヒロミ 逆にええかもよ。ハッピーターン。でも、服が…

トム …うまいな、エリーゼ。やっぱり。

ヒロミ ブルボンやな、やっぱり。

トム あんま味せんけど。

二人ある想いに捉われながらお菓子を食べ続け、またお隣さんの家を見る…。

ヒロミ …融さんや。

トム そっちもいく？

ヒロミ 現実問題。俺らだけの時来たらどうする？融さん。

トム …買い出しについていくっやっぱ。

ヒロミ もう車出て行く音した。…どんな感じなんやろ。

トム 誰？

ヒロミ 融さん。

トム それが、7年ぶりに…嫁の実家。

ヒロミ 想像してみてくださいよ。

トム …キツイ

ヒロミ 想像するのが？想像して？

トム 両方。

ヒロミ 何て声かけるん？

トム …ええ。

そこへ、先ほどの工務店員、早乙女が戻ってくる。

早乙女 あれ？人がまた減って増えて、変わってる。

トム あ…どうも

ヒロミ 誰？

トム ええ…工務店

早乙女 そうそう。お菓子食べてたん？プール入ってお菓子食べて花火見て！また夏休み来たって感じ？そんな花火を更に

トム (さえぎって) あ！あの

早乙女 はいはい

トム さっきここに学生服着た

早乙女 男の子ね。親戚じゃない…

ヒロミ 隣の子

早乙女 あ、お隣の

トム いや、まだわかりません

早乙女 え、なにそれ。なぜなぞ？

トム やっぱりいましたよね。男の子。

早乙女 え。うん…。え？え、何？…明日法事って言うってたけど…怖い話？え？自分のつて事！？

ヒロミ いやいや違います違います。明日は違います。明日はこの10年前に亡くなった、僕らの従弟のお姉ちゃんの。

早乙女 あく。え、10年で法事？

ヒロミ 神式なんです、10年祭っていう。

早乙女 あくそうね、色々あるもんね。ね、それでね、皆さんね。はいはい。聞きました聞きました。

ヒロミ その旦那さんがもうすぐ来るんですけど

トム ちょっと

ヒロミ だって俺らわからんし、もうちよつと大人に聞いた方が

早乙女 なんやろ？旦那さん。

ヒロミ 10年ぶりに会うんですけど、僕たち。

早乙女 あ、その亡くなった徒弟の方の旦那さんに。

ヒロミ だから、元旦那さん。その人が7年ぶりに

早乙女 え？10年ぶりって

トム あ、俺らは10年振りで、この家には7年振りに来はるって

早乙女 あ、はいはい。

ヒロミ もうすぐやと思うんですけど、何かそういう時かける言葉ってあるんかなって。僕らもお葬式以来で

トム しかもその時全然喋ってはないし

早乙女 あゝ…まずは…久しぶりです、やろね。で…このたびは「秋傷さまで

トム それはスグのやつでしょ

早乙女 あ、そうやね。えくじゃあ…その節は（適当に濁す）って

ヒロミ その節は、何って？

早乙女 そういう時って、語尾は濁すもんやねん。大人。

ヒロミ 濁す。

早乙女 そうそう。

ヒロミ その節は…もにやもにや

早乙女 いや、それじゃもにやもにや言うてるってわかるから。相手もわかるし。もにやもにやって伝わるわ。

ヒロミ むず…

トム むずい。

早乙女 その節は（濁す）

ヒロミ 濁ってる

トム あゝ…

早乙女 そうそう。いや…でも7年ぶりに奥さんの実家って…しかも亡くなった。

ヒロミ お葬式の時、倒れそうになったた。

早乙女 あゝ

ヒロミ なんか…花火楽しむって感じなるんかな、今日。

早乙女 それは困る！

二人 え

早乙女 だって、10年振りやのに！ね？

ヒロミ でも、融さんも明日の10年祭前に、わざわざ花火に来るんやしな

早乙女 ほらほら、そうそう。楽しみにくるんやって、きっと。

トム 楽しみについて言うか…

ヒロミ 二人で見た最後の花火やから、みたいな

早乙女 でも、だからこそ、こう…記念に残したい花火ってことやね。

トム 記念

ヒロミ …まあでも。そんな明るいのも変やろ。ってか無理やろ。

早乙女 意外と、本人明るく来るかもよ。ホラ心配かけんように。

トム そのパターンもあるか

ヒロミ そっか、そしたら楽かも、こっちも

トム うんうん

早乙女 大人やし。ホラ、その方も。気を遣わせんようにパーツと

ヒロミ なるほど。パーツと

そこに、重い空気を背負った十川が入って来て、ベランダを見まわす。

ふとその重い空気を感じて振り返るベランダの三人、十川と目が合う…。

十川 こんにちは

三人 こんにちは…

早乙女 (こそこそと) あの人が？

ヒロミ …かな。

トム 融さん…

ヒロミ 多分。

早乙女 気を遣わせるパターンやったね

ヒロミ ちよつと

トム えっと

ヒロミ …あの

十川 あ、この親戚の？

トム お久しぶりです。(その後の言葉をヒロミへ促す)

十川 お久しぶりです。

ヒロミ (ずるい〜と、トムに視線を送り) その節は… (咳払いとかで下手くそに誤魔化す)

十川 …大丈夫？

ヒロミ あ、はい。

十川 (早乙女を見て) …そちらも？

早乙女 あ、この度は(濁す)

十川 何て言わはったんですか？

早乙女 …。あのですね！あなたが10年ぶりに見に来た、今日の花火大会の事でお知らせに回らせてもらってるんです。

十川 今日の

早乙女 はい、まだ間に合ってますよっ

十川 …何が

早乙女 花火でね、メッセージを送ろうって企画でした。

ヒロミ すげー！！

十川 あ、君らも今？

ヒロミ あ、はい。

早乙女 でしょう？

トム どういう事？

ヒロミ 知らんけど、凄くない??

早乙女 あ、うん、凄いいんホンマに。だからすげーってのは正解。

ヒロミ やった。

早乙女 うちは普段工務店なんですけどね。あ、早乙女工務店です。全国展開させて貰ってるんですけどね、ここ数年コンセプトと言いますか「花火の見える家」って花火提案をさせて頂いていて。はい。全国の有名な花火大会のある花火地域ではもうかなり花火のお仕事させて頂いているんです。それで今回その花火縁もあって。はい。花火業者さまと花火提携させて頂いて「花火の見える家に向けて、花火で花火メッセージを」って花火企画を進めてまして。はい。この花火地域も回らせて頂いてるんです。文字通り「花火で花火メッセージ」が送れるんですよ。花火。

トム すげー!!!

早乙女 やろ!?

ヒロミ ちょっとわかんなかったです。

トム え、さつきより説明してくれてたで

ヒロミ いや、もう花火花火つてめっちゃ言うから、そればかり耳に残って

トム いや、だから、花火でメッセージが送れるんですよ。

早乙女 そうです。

十川 どうやって

早乙女 50音の花火をあらかじめ用意してありまして、あとはその組み合わせで。

ヒロミ すげー! 50音って漢字もありですか!?

早乙女 あ、いや…50音なんで。平仮名かな。

ヒロミ タダで?

早乙女 いや、それはね、ちょっと。こっちも仕事なんで。一文字あたりですね…色々プランがあつて

早乙女、持っていたカバンからチラシを取り出す。

十川 今日ですよ、花火大会。

早乙女 あ、はい

十川 もう…あと数時間で始まるのに、今それを回ってるんですか?

ヒロミ ホンマヤ…

早乙女 それが、今は全部コンピュータですからね、PC。だから今日、今からでも間に合ってます(腕時計を見て) そうですね…17時までならば。はい、全燃。こちら10年振りでしょ? 花火大会。運営側も色々こてこてに回ってます。それで事前告知するのが遅れてしまつて…まだ枠があるって数日前に発覚して。それでも人気なんでもう埋まっては来てるんですけどね、最終募集を今日。はい。

ヒロミ え、めっちゃラッキーってこと?

早乙女 そう、ラッキー! (改まって、チラシを読みながら) 10年の時をかけて復活する花火大会、その時に

ヒロミ え、いくらですか?

早乙女 あ、うん、えっと…開花したときの直径が100メートルになるのが、いわゆる3号玉で4、5千円やねん。

ヒロミ 安っ

早乙女 やろ?

トム 安いんかな

ヒロミ え？安ない？雰囲気もつと高いかと。

早乙女 よく言われます。今回は150メートルの5号玉で作って、文字を。それで普通は1万5千円やねん。

ヒロミ 高つ！え、急に高い？

早乙女 でも今日は特別に最終募集はその、3号玉の値段でやらせてもらおうって。

ヒロミ いくらですか！？

早乙女 あ、うん、さっき言った4、5千円。

十川 でも一文字ですよ、その値段。

ヒロミ あ、そうか…「さ」ってだけあがってもわけわからんもんな。それか、メッセージ送りたい相手に「さ」って花火あがったら、俺からのメッセージやからって言えばええんか。

早乙女 いや…組み合わせさせていただいてちよつとした文章にしてもらうって、文章って言うか言葉。短くても伝わりますよ。

ヒロミ 例えば

早乙女 例えば！？

ヒロミ はい

早乙女 それは…その送りたい相手のアレによりますね。

ヒロミ 送りたい相手

早乙女 例えば？

ヒロミ 例えば！？

早乙女 例えるために、例えは誰に？

ヒロミ トム、あれちゃうん、隣の子に伝えたら？

十川がその言葉に引つかかる。

十川 え

ヒロミ こいつ10年前の花火の時に、隣の女の子に一目ぼれしてて

トム おい

十川 へえ

トム 『覚えてますか、10年前の花火大会ペランダで僕とあなたは…』

早乙女 え、それあれ？メッセージ？

ヒロミ 超長ない？

トム でも久しぶりに会うのにそんな短いメッセージじゃ

ヒロミ じゃああかんな。口で言うやつやそれは。

トム ヒロミは何かないん？

ヒロミ 実は…今日婚約者つて言うか…後で来てもらおう事になって

トム なにそれっ

ヒロミ 親戚集まるし、ええかなって

早乙女 めっちゃええやん！それいこう！

ヒロミ ちょっと紙とペンとかあります？

早乙女 あるある、シミュレーションっ書いて書いて

早乙女、紙とペンをヒロミとトムに渡す。

トム え、俺は別に

ヒロミ わくなんて言おう(紙に書きたす)

早乙女 浮かんだものをね、とりあえずね…わ、字綺麗やね、若いのに

ヒロミ あ…字はよく褒められます

早乙女 女の人の字みたい

トム 名前も字もか

ヒロミ あく考えるだけでもアレですね、楽しいって言うか

早乙女 ね〜(言いながら十川に紙を渡そうとする)

十川 いや…

早乙女 あ

ヒロミ あ…すみません

十川 え、なんでなんで

ヒロミ 何か…俺だけ。幸せで。

十川 …そんなん、気にせんといて。

ヒロミ、書いていた紙をくちやくちやにして、奥の方の段ボールに突っ込む…

十川 いや、気を使ってくれてありがとう。いや、気を使わせて…

気まずい思い空気の中…ヒロミがお菓子を手にとって無意識に食べ始める。

トム うそっ

ヒロミ あ、何か…。(十川に) いますか？

十川、無言でペランダから出て行く。

ヒロミ 融さん…まずったかな。

早乙女 うーん。でもね、こればかりは。気にしてもね。もうだって10年前でしょ、ホラそれよりも、さっきの紙…

トム それちよつと

早乙女 あ、でもホラ時間…婚約者が来るんでしょ？

ヒロミ でも…親には反対されると思ってて

早乙女 何で？

ヒロミ 多分…認めてもらわれへん相手やから…

早乙女 問題アリな感じの人？

ヒロミ 明るくてめっちゃいい人なんですけど…俺ちよつと融さん見てきます。

ヒロミ、ペランダから出て行く。

早乙女 あ、ちよつと…

トム 融さん…

早乙女 心配やね。あの、さっき下にめっちゃおった他の家の人たち…どっかいかはったんかな？

トム 買い出しに、夜の。

早乙女 そっかそっか。さっきの子

トム ヒロミ

早乙女 ヒロミ？男やのに珍しいね

トム お父さんもマサミって言うんですよ、あそこの家

早乙女 へー。伝統なんか。メッセーシ花火あげられたらええのにね。応援してあげて、親戚やもんな。

トム 認めてもらわれへん相手って

早乙女 どういう事やろね

トム …。(ヒロミがやたらすり寄ってきたプールの事を思いだすトム) いや、まさか

早乙女 え？なになに？

トムもベランダから出て行く。

一人になった早乙女、奥の段ボールから先ほどヒロミが捨てた紙を探し出そうとしていると…

あおい あれ？

ベランダにあおいがやってきている。

早乙女 あ、さっきの

あおい はい。この人たちは

早乙女 会わなかった？皆ね、ちよっと…どっか。

あおい そうですか

早乙女 あ、そうやえっと…君名前

あおい 十川です。

早乙女 十川

あおい あおいです。あ…

早乙女 十川あおい。

あおい …

早乙女 ええよ、恥ずかしがらんでも、女の子みたいな名前。さっきもいたもん。

あおい え

早乙女 さっきここにいた若い子もね、女の子みたいな名前。ヒロコ…やったかな？マサコやったかな？

あおい 結構、モロ女性な名前ですね

早乙女 そうそう、あおい君にもね。コレ紹介しておこう。

チラシを手渡す早乙女

あおい …花火でメッセージ。

早乙女 そうそう。送りたい人おるんちゃう？好きな人とか、おったり？

あおい …

早乙女 夜空をキャンバスに気持ちを伝えてみませんか？企画。たぶんあおい君のお小遣いでも行けると思うし、サービスするよ。せっかくこうやって出会ったんやしね。

あおい いいですね

早乙女 やろくろく？思うやろく？

あおい でも…送る相手が

早乙女 おるやろ。好きな人とかは？まあ家族に日頃の感謝とか。誰か誕生日近かったりせえへん？

あおい …どこまで届くんですか？

早乙女 どこまで？

あおい メッセージは、どこまで届くんですか。

早乙女 うーん。見える所まで…やね。

あおい 上から見たらどんなふうに見えるんですか？

早乙女 あ、あれ？映画になったやつ？上から見るか下から見るとか？

あおい …いえ、別に。聞いてみただけです。

早乙女 どこまでも届くよ、メッセージは。僕はそう思ってる。届けたって気持ちがあれば。

あおい、キャンプ道具を探り出す。

早乙女 あれ？興味ない？

あおい ちょっと…さっき見えた時気になるのがあって

早乙女 もらうん？何か

あおいが、古い段ボールの中からひしやげた紙コップを取り出す。

早乙女 わ、汚な。

あおい …

早乙女 あ、ゴメンもしかして思い出の何か？

あおい そうですね。

早乙女 あ、ゴメン。

あおい …電話ですコレ。

早乙女 …電話。

あおい 片方切れてるけど

よく見ると紙コップの底からは途中で切れているが、糸が垂れている。

早乙女 ああ！それ、えっと…何やホラ。紙電話？紙…紙…

あおい 糸

早乙女 紙電話？

あおい …糸電話

早乙女 そうそうそう、懐かしい！

あおい よくこの家族とキャンプ一緒に行ったりしてて、昔は

早乙女 そうなんや

あおい 懐かしい…

その片方を探すように、またキャンプ道具を探るあおい。

そこへ、ヒロミが戻ってくる。

早乙女 あれ？さっきの男の子に会わへんかった？探しに行ったみたいやったけど。

ヒロミ いえ。

早乙女 融さん…やつけ？は？

ヒロミ (首を振る) 道路出てすぐまがつたんかな…

早乙女 あ、それで花火メッセージですけど…

ヒロミ そうそうさつき、相手からラインが来てて

ヒロミ、スマホを取出してラインをチェックする。

ヒロミ えー！？

早乙女 何？？

ヒロミ 今日のその紹介するつもりやった…

早乙女 ああ…

ヒロミ ちょっと何なん…帰るって、今日

早乙女 アカンやん！え？喧嘩？？

ヒロミ 何もそんなん(言いながらスマホを操作) 喧嘩なんてしてないですよ、なんで急に…あ、もしも…何？どういう

事、ああのライン。今どこよ。…え？もう駅？ちょっと待って待って何でそんなん…いや、まあそうやけど…別に

騙したとかじゃなくて、今日久しぶりに親戚集まるから絶対ええ機会やと思つて、俺は。

早乙女 大丈夫？（チラシを片手に心配そう）  
ヒロミ …なんかちよつと前にここに来てたみたいで、親戚集まってるなんて聞いてないって…（電話に）もしもし？  
だからそれはその方が

その時、また先ほどとは違う服装のいち子がベランダに入ってくる。

いち子 何してんの？

ヒロミ あ、ちよつと。え？もう帰って来たん？

いち子 私は準備あるから、近所のスーパーに行ってただけやねん。…どう？（服）変？

ヒロミ （電話に）もしもし？ちよつと

いち子 …何なん。

早乙女 あ、どうもこの家の…

いち子 ああ、何かトムが言ってたやつ？花火のメッセージ

早乙女 あ、聞いてもらってますか？

ヒロミ （電話中）だからそんなつもりじゃ…そらそうやけど、それぐらいした方がウチの親は…ちよ、だから待つてって！

いち子 （電話の様子に）何？

早乙女 何か、今日そのお付き合いしてる方を呼んでみたいで、紹介したいって…でも反対されると思ってるみたいで

いち子 何で

早乙女 さあ…なんかちよつと前にその人もここに来てたみたいで…親戚に紹介されるとか思ってたとか何とか

いち子 え、来てたん？…で、いま、その彼女と？

早乙女 彼女…で、あつて欲しい

ヒロミ ゆうきつ、ちよつと。

その言葉に、ヒロミを見るいち子。

早乙女 …やっぱり。

いち子 （早乙女を見る）

早乙女 そっち…？

いち子 （素早くヒロミを見る）

ヒロミ …だから（二人の目を気にして、ベランダから廊下へ）

二人 …。

廊下で電話をするヒロミが気になりながらも、話を交えるいち子。

いち子 その花火でメッセージって、どういうの？

早乙女 あ…

いち子 どういうの？

早乙女 はい。打ち上げ花火でね、メッセージを夜空につけてコンセプトでして。

いち子 凄いな

早乙女 凄いでしょ？いいでしょ？

いち子 ホンマやったら

早乙女 え

いち子 数字やアルファベットだけやろ。今はまだ

早乙女 え

いち子 ひらがなが出来るようになったって聞いた事ないけど

早乙女 え、え

いち子 仕掛け花火じゃなくて、打ち上げなんやろ？

早乙女 あ、うん、そう

いち子 無理やろ。まだ

早乙女 ん

いち子 コレ今年の、今日の花火の事やんな？

早乙女 え？

いち子 聞こえてるやろ

早乙女 …

いち子 あのね、忙しいんでウチ今日。明日と。そんなしょーもない詐欺にもならん詐欺に付き合ってる暇ないんで。

早乙女 いや、詐欺じゃなくて、えゝ(チラシを自分でもまじまじと見る) 打ち上げ…ひらがな…えゝ

いち子 何？あんたは知らんと営業だけしてたってこと？それやったらお気の毒やけど、詐欺の片棒担いでるんやぞ。

早乙女 そんな…

いち子 早よ手え引いた方がええんちゃう。

早乙女 あの社長が…お世話になったのに…複雑です…。

ヒロミ ちょっと！ー！おいっ

廊下のヒロミの声に反応する二人。

いち子 …こつちも複雑。

早乙女 え

いち子 かわいい従弟が10年ぶりにあつたらさ…

早乙女 ああ…

ヒロミ …

絶望…と言った感じのヒロミが入って来る。

いち子 大丈夫なん？

ヒロミ 終わった。

早乙女 えっ

ヒロミ 俺も、ちよつとムキになつてもて。…そしたら、もう知らんつて。もう…終わりがつて

早乙女 うわっうわ…

ヒロミ …俺、絶対認めてもらうまで頑張ろうつて思つたのに。あいつの為なら、あいつとなら頑張れるつて。

いち子 まあ、でも。傷が浅いうちつていうか…ホラ、ややこしなつて駆け落ちとかさ、絶縁つてとかさ、そうなるより

ヒロミ それでも俺は、一緒におれるほうを選びたかつた。

早乙女 …ショックですね。それは

いち子 どれぐらい付き合つてたん？その…子。人と。

ヒロミ 3年前に出会つて…

いち子 結構な、アレやね。

ヒロミ …こんな風におわるなんて。え？？今日の朝が最後つてこと？？そんなんつ

いち子 …まあ、うん

ヒロミ 俺…ちゃんと付き合つたの初めてで…

早乙女 意外つ、そんな男前やのに

ヒロミ 出会いが…なくて

二人 ああ…

いち子 中々ね。

ヒロミ 好きになつたりはした…ことあつただけど…

いち子 そうね、相手がそうかどうかはね。

ヒロミ 年上で…でもそれ感じさせへん空気が持ってて、顔とかじゃなくて、とにかく明るくて…人をここまで好きになったのも初めてで…なんか、両想いってこんな風なんやって

いち子 めっちゃ教えてくれるやん、恥ずかしわ

ヒロミ だって、どうしたらええかわからんくって

いち子 嬉しいしかわいいけども、複雑やわ

ヒロミ ゴメン…苦しいっていうか、何コレ、(胸のあたりを触って) 痛いって言うか

早乙女 うわ…

ヒロミ そんなん…俺無理やわ。急に言われて

早乙女 付き合ったん初めてやったら別れたんもそりや初めてやもんな

ヒロミ こんななんん？…ええ？

いち子 …ええ薬があんで

二人 えっ

ヒロミ 薬？？

早乙女 ちよ、それアカンやつじゃ、違法とか危険とかの…

いち子 アホ、そんなん持ってるかいな

ヒロミ 欲しい、それ、欲しいっ

いち子 明日あげる。

ヒロミ 今欲しい

いち子 明日じゃないと、あげられへんねん

ヒロミ …明日

いち子 そう、だから今日は頑張るねん

ヒロミ …(ベランダの下を見て) あれ？？

早乙女 何？どうしたん？？

ヒロミ …ゆっきー！？

ヒロミがベランダから急いで出て行く。

いち子 え？(ベランダの下を見て) 来てたんか？

早乙女 さあ…アレですかね向こうもやつぱり未練と言っか…それで

いち子 何やねん。別れる言うたんやったらもうこれ以上惑わすなよな。かわいい従弟を。年上やろ、ホンマ腹立つ。どこのアレや…おっさんや。…ホンマ

早乙女 …さっきの薬ですけど

いち子 ああ…。一番効くねん。何より、どんなもんより。なくしたり、終わったりした時には。

隠れていたあおいが出てくる。

あおい 欲しいっ

いち子 うわっ

早乙女 あ、そういえば…隠れてたん？

学生服姿のあおいを見て、固まるいち子。

いち子 …いつから？

早乙女 来られた時には…はい。

あおい 欲しい、その薬。

いち子 …

あおい 嘘やろ、そんなないんやろ。ないのに言うてるんやろー？

いち子 …嘘ちやう

あおい 教えて。あげたい。お母さんと、お父さんに、あげたい。

いち子 …あんたはええん？そんな…

あおい お母さんとお父さんにあげたいから、お願いっ

いち子 明日になったら

早乙女 やっぱり明日

いち子 まあ、そしたらまた明日って言うけどな

あおい え

いち子 明後日になったら、また明日って言うし。その次もまた明日って言う。

早乙女 ちよつとちよつと

あおい ホラ、嘘やん！騙してるんやんっ

いち子 そういうもんやから。

あおい 何それっ

いち子　それが一番効くねん。っていうか、それしかない。それしかないねんで。

あおい　…

あおい、黙ってしまふ。聞いていた早乙女が自身の事を思いだすように口を開く。

早乙女　ああ…そう、か。そうですね。僕もね、10年前に離婚しまして。

いち子　そうなん？

早乙女　ショックですよ。一方的に別れられて…

いち子　よっぽど悪い事したんやな。

早乙女　違いますよつ。まあ…色々ありますよ。はい。でもこうやって今、はい。

いち子　10年な

あおい　…今、こんなにしんどいのに。二人とも…あんなに

いち子　だから、明日を待つねん。明日になったら明後日、明後日になったら明々後日。

あおい　…それって薬なん？

いち子　よう効く。効いた。効いてるやろ？

あおい　…

いち子　でもな、言うても明日もそんな変わらんで。明後日だって。一週間経ったつて、ああアレから一週間や…つて、も  
しかしたら5日目よりしんどいかもしらん。一ヶ月しても、三か月しても、半年経つても、急にその日だけ何コレ耐  
えられんつて、スポット的に効果が薄れる時もありよるからな。手ごわいねん。昨日より今日の方がしんどい時もあ  
るよ。ほんでまた夜が辛い。夜はな。そら。それは何年経つてもや。

あおい　…しんどい

いち子　それでも、それしかないもん。ないねんもん。

いち子のその振り絞るような言葉にあおいは力なく…。

あおい　…早く…過ぎて、欲しい。…早く。

早乙女　せやね、寝てるうちとか…

あおい　早く、もっと…もっと、早く…知らんうちに

そんなあおいの様子に、いち子は力強く話し始める。

いち子　美佐子が亡くなって、1週間後かな。角の中村さん。あそこのお兄ちゃんがめっちゃ美味しい大福アンパンくれてさ。

早乙女 大福アンパン？

いち子 そう、パンの中にな大福が入ってあんねん。普通は餡子だけでアンパンやん？じゃなくて餅が大福が。パン、餅、餡子、餅、パンってな。パンのふわふわを噛んだら、ちよっと塩っ気のあるモチって食感が来るねん、ほんで餡子。

早乙女 美味しそう〜

いち子 めっちゃ美味しかったん！初めて食べたし。ホンマ！めっちゃ。美味しかったん！めっちゃ。ホンマ。

あおい ……

いち子 寝てるうちに過ぎてたら食べられへんかったわ。大福アンパン。中村さんのお兄ちゃんのもの。

あおい ……

早乙女 それどこで売ってます？

いち子 (呆れて) 自分で探し。

早乙女 え〜…

あおい ……探そかな。

あおいの言葉にいち子は、少しホッとして。

いち子 うん。そんなんもしていかな。私、夜の準備あるから…こんなかつこしとられへん

いち子言いながらベランダから出て行きかけて

いち子 (あおいに) 早よ、帰りや。(早乙女にも) 特にあんた。

ベランダから出て行く。

早乙女 見つけたら教えて、大福アンパンのお店。

あおい ……

早乙女 あ、それできつきの花火やけど、メッセージ思いついた？送りたい相手あった？

あおい え…ずっとここで聞いてたんで

早乙女 え

あおい ……詐欺

早乙女 あ、あ、そっか。いや…なあホンマ…こつちがもつびつくりで…あつ！ほんで、今あおい君が探してたやつあった？

あおい いえ…でもこの段ボールに結構いろいろ

早乙女 へ〜

あおいが段ボールを探り出すと、トムが駆け込んでくる。

早乙女 あ、おかえりなさい。えっと色々状況が

トム 聞いた今、いち子姉ちゃんから。ヒロミ、彼氏追いかけて行ったって？

早乙女 おおお…ハッキリ言うね

トム あいつ…会えたんかな

早乙女 どうやらね…ここスタートで追いかけて行ったの大概今まで出会えてないからね。

トム …祈りたい。どんな人が全然知らんけど相手

早乙女 年上の…明るい人だそうです。めっちゃショック受けてはりましたね

トム …聞いた。

その時、融がまた…

融 どもどもっ！

二人 …！？

早乙女 あ、さつきも

トム さつき？

早乙女 一回来てはった…（融を見て）え？

融 あ、何回かね来て…と言うか。ええ、その、中々アレで。ちよくちよく、はい。えっと、皆さんは…

トム え…じゃあ（ヒロミの彼氏…）

早乙女 …ですね

トム どうも、久野ツトムです。

融 あ

トム ヒロミとは会ったんですか！？

融 ヒロミ君？え…来てるん？

トム ええ、そつちに行きました。

融 え？…あ、そつかさつきのヒロミ君と（プールを見て）

トム 帰って来たのは、やっぱり会いたいたいですか

融 …聞いている？…ツトム君。僕の事。

トム 多くは話さんから、アレやけど。でも知ってます。わかってます。

早乙女 あの、先ほどは…

融 すみません、何か失礼な感じでしたよね、ちよっと。すみません。

早乙女 いえ、そりゃ…ね。色々考えますよね。どんな風になってね。あわす顔がつてね。

融 あ…そんなアレなんですけどね。いや、うん。何かここまで来たらやっぱり。

トム 今ちよっと親たちは買い物いってて、大丈夫です。

融 え

トム ここで話して下さい。

融 え…

いち子 トム！ヒロミ帰ってきたで〜！！

いち子の声が聞こえると、動揺する融。

融 あ…

トム 逃げるなっ

融 え

トム 逃げたってどうしようもないやん！だってここまでは来たんやろっ！

融 そう、やけど…そりゃそうや。逃げるとかじゃ

トム 早乙女さん、そのお寿司撒くやつの大きいの

早乙女 あ、簾ね

トム それでちよっと隠して

早乙女 え

トム 対面ですよ。サプライズ。ここにいること知らんのでしょ？

融 あ、下では誰にも会わんと…裏からきたから

トム 待っててください。連れてきますから。

融 いや、でも普通に会った方が

トム ここまで来たらもう盛り上げるしかないでしょ！

融 そう…かな？

トム 早乙女さん、お願いしますよ。

トム、ベランダから出て行く。

早乙女、融の前で隠すように簾を掲げる。

早乙女 失礼します。

融 えっと…大丈夫かな、ふざけてると思われへんかな

早乙女 そんなことないですよ、喜びます

融 …早乙女、さん？

早乙女 あ、この辺営業で回ってる工務店の者で、大丈夫です。今日はもうこの親戚のつもりですから。

融 はあ…

トム 行くで俺、行くで

ヒロミ 何大声で言うてんの

トムとヒロミの声が廊下から聞こえる。

早乙女 しっ！！

融 あ…ああ、はい。

ベランダの入口に、ヒロミを連れたトムがやってくる。

トム ちょっと、待って

ヒロミ 何やねん

トム (早乙女に) そっち大丈夫？

早乙女 OKOK

トム うっすら見えてるっ

早乙女、簾の向こうの融に後ろ向きになるように指示。

わけもわからず従う融。

トム どうぞ、中に

ヒロミ 何、変なの

トム ここまで、ここまで来て。

トムに指示された場所まで進むヒロミ。

トム ……会えたんか？追いかけて

ヒロミ ……いや。見間違いやったんやと思う。もう電車乗ったって最後にライン来てた。

トム それでええんか

ヒロミ よくないよっ！そんなん全然よくない！

トム そりゃな、そんな事で諦められるんなら最初からそんな人選んでないよな。わざわざ。しかもそれを今日、この日にここへ連れて来るなんて思わんよな。よもや花火でメッセージ送ろうなんて、そんな事まで考えへんもんな。

早乙女 あの、ちよつと腕が…

ヒロミ (早乙女を見て) 何してんの？

トム ええから。

ヒロミ ……足見えてるけど後ろ誰かおんの？

早乙女 あっ

トム おいっ

早乙女 いや、だってそれはもう無理が

トム ええわ、ホラ、ヒロミ見て。あそこの足見えてる人、見てて

ヒロミ え…誰？

トム 想像もつかん人やと思う。ヒロミが今一番会いたい人。

早乙女 それもう言うてもてない？

トム ホラ！ご対面っ！…

早乙女が、簾を巻き上げる…のが遅いので、簾を捲って融がヒロミの目の前に。

トムと早乙女がワクワクと二人を見守る中…

ヒロミ ……誰？

二人 えっ！…

融 ……覚えてないよね

ヒロミ ……え？…っつと。

早乙女 ちよ、ちよちよつと

トム あれ？あれ？

いち子 さっきからうるさいな

融 あ…

階段下からのいち子の声にまた反応する融。

その時、段ボールから何やら見つけたあおいが、融に。

あおい (紙を融に差し出して) あ、あの

融 (急に話しかけられて) わっ!...あれ?え?

ヒロミ (あおいを見て) わっっ!.....!

トム (あおいを見て) うわっっ!.....!

融 え??何なに???

それぞれがパニックになっているそこへ、今度はジーンパンに割烹着姿のいち子が。

いち子 うるさい言うてるやろっ何をそんなに(融を見て) ああああ!...

トム やろ?やろ?いち子姉ちゃん??

ヒロミ そうなんやろ??さっき言うてた隣の...

いち子 融君。

二人 えっ!?

融 あ...お久しぶりです。

早乙女 何ですか何ですかもう僕わからんですけど

ヒロミ ちよ、ちよっと待って

トム え?融...さん

融 あ...はい

早乙女 え?この方が...その

いち子 (あわてて割烹着を脱いで) 着いた、とか、連絡くれたら良かったのに

融 いやあくホンマにねくすみませくん

トム 見えてない、俺ら以外には見えてない...

ヒロミ え...

いち子 え、ホンマ。ね、元気?そうやけど、うん。元気?

融 はい、もうそれは、はい。皆さんお元気で?

いち子 うん、こっちはもう相変わらずやわ。

融 あくそれは良かった。すっかりね、ちよっと無沙汰してしまっ

いち子 そんなそんなん。全然全然。うん

融 はい、ええ

いち子 今あれやねん、お父さんとか買い物行って。

融 らしいですね

いち子 そうそう。

いち子と話すのが気まずそうな融、話題を変える。

融 何か、誰かと間違えられてたんですかね？ヒロミ君と何かご対面で…

ヒロミ あ、そうや。え？ちよつと待って俺が一番会いたい人って…融さんを誰やと思って？

トム あ

早乙女 ねえ

トム …彼氏？

ヒロミ 彼氏！？

早乙女 ゆうき…でしたっけ

ヒロミ 聞いてたん！？電話

いち子 めっちゃここで話してたからな、聞いてた言うか聞かされたんやであれはもう

ヒロミ 彼氏て…！！

トム 認めてもらわれん相手って

ヒロミ 女や、ゆうきって女っ！

三人 えっ…！！

いち子 何その男みたい名前

ヒロミ 俺はそんな事言われん立場やし

いち子 あ…

ヒロミ 結婚式の時新郎新婦の名前が逆って思われるやろとか、二人でよう言うってた…いや、でもちよつと待ってよ何で彼氏ってなんでそんな風に！？

いち子 なんでや

早乙女 さあ…

トム 色んな要素が絡み合って…

ヒロミ 彼女っていうか、婚約者って俺は思ってた…でも。あかんようになってもたけど。それも。

いち子 アホ、そんなもん一回くらい別れるだの別れへんだの言うわな、付き合ったとつたら。一回どころちやうで。  
ヒロミ だって、さつきはすぐに諦める的な

いち子 いや、それは相手が年上のおっさんやと思ってたから、あまりにも色んなハードルがあるなうって思て。それやったらその方がええんちやうかって思ったんやんか

ヒロミ ちよつとちよつと〜

融 そんなん、決められたくないよな

少し強めの融の言葉に、いち子は黙ってしまふ。

いち子 …

融 ホラ、ヒロミ君は若いねんしな、今はそんなん、今って言うか、そんなんな

いち子 …うん、そうそう

ヒロミ もう一回連絡する。ちゃんと。

融 そうやね。それがいいと思う。

ヒロミ え？じゃあさ、さつき来てた人は誰やったんやろ

トム え？

ヒロミ ホラ、花火の話を最初に一緒に聞いた男の人、俺らが融さんやと思ってた。

融 あ、僕じゃないですね。

トム ああ全然雰囲気違いました

早乙女 気を遣わせる感じのね。暗い

あおい お父さん

どさくさに紛れてまた隠れていたあおいが姿を現す。

ヒロミとトムはその姿に固まる。

融 あゝ確か十川さん

いち子 あ、融君覚えてるかな、隣の息子さん

融 美佐子がめっちゃ可愛がってた兄弟の

いち子 そう。弟、息子さんの方が先月亡くなって

融 え…(あおいの方を見る)

あおい (頷く)

ヒロミ ……見えてる、融さんにも

早乙女 ちよ、ちよつとっ！

ヒロミ 早乙女さんにも…

融 ……それで…

早乙女 え、えええ

ヒロミ 落ち着いて

早乙女 いや、だだだだっ…え？？

いち子 (あおいに) ……帰りって言うたのに。

ヒロミ え…いち子姉ちゃんにも

いち子 皆びつくりしてるやん。

あおい ……

いち子 それ、ええことないで、あおい。ええことない。

融 ……なんで…そんな？

あおい お母さんが心配で

融 わかるけどね……どんな姿でもって、そりやその気持ちは

あおい 喜んでくれる。笑うし…飯も食べるし。

いち子 あんたは？笑ろてんの？…飯食べてんの？

あおい ……それでいい。だって、今日なんて普通の格好してたのに、お母さん、名前…

いち子 それ、お父さんには？

あおい (首を横に振る) お父さんは多分何も言わん。知ってるくせに何も言わんもん。(この格好) 見せてない。

トム ……あつ！…(ベランダの下を見て) ヒロミっ

ヒロミ あっ(ベランダの下を確認して)

早乙女 ちよ、ちよつと

二人がベランダを出ていくのを、早乙女が追いかける。

ヒロミ さっきの人！そのお父さんが今！

トム 連れてくるから、アレ(簾を指して)頼むっ

ヒロミ わかった

トム 早乙女さんも

早乙女 了解っ

ヒロミと早乙女が戻ってきて、簾を手にする。

いち子 また何しようとしてんの、あんたら

ヒロミ ええからっ

早乙女 今度こそです！

ヒロミ ちよつと、融さん向こう行つて

融 あ…

融を押しつけて、あおいの前に簾を垂らすヒロミと早乙女。

あおい あの…

ヒロミ ちよつと待つて(天に)待つて…！

いち子 …何？

二人 しっ

ヒロミ 今、トムが連れてくるから。

あおい え、誰…

ヒロミ 一番会いたい人、お互いに。

あおい …それは無理やと思う

いち子 ちよつと、何してんの。

ヒロミ しっ…！…って

廊下に十川を連れてきたトムが現れる。

トム 行くでっ入るでっ

ヒロミ こっちはOK

いち子 あんたら…

ヒロミ しっ…！

十川 え？

トム いいんで、こっちに

十川がベランダに入って来る。

十川　ここですか？え？これは？

融　デジャブですね

十川　（融に気づいて）あ、どうも…

融　お久しぶりです

いち子　今日はすみません。

十川　いや、こちらこそお招きしてもらって…やっぱり家内は無理で

いち子　全然全然。ホントに

融　あ、聞きました、この度は本当に

十川　あ、いや…。親戚でもないのに不思議ですね

いち子　まあみたいなもんやし

早乙女　ちよ、ちよと僕また腕が…

トム　でも割って入る空気じゃ

ヒロミ　十川さん、あれ見てもらっていいですか…あの、アレ、お寿司撒くやつ大きいの

トム　簾な

ヒロミ　スダレ

融　いいんですか

いち子　…もうええわ、知らん

十川　え？何ですか…

ヒロミ　よしっ！…

トムと早乙女が段取り悪く簾巻き上げる…のが遅いので…あおいが捲って出てくる。

あおい　…お父さん。

あおいの学生服姿を見て、言葉に詰まる十川。

十川　…お前。

あおい　コレ、覚えてる？

あおいが紙コップを差し出す。

あおい 糸電話。昔よくこのベランダに来て、お父さんがウチのベランダで。これ使って話たよな。

十川 ……どこに、それ

あおい 何か、その段ボールと一緒に入ってて

いち子 それ…10年前から全然整理してなくてそのまま持って来てるから。それでその中に。

十川 (あおいの手にしている紙を見て) それも？

あおい あ、コレ、まだ何かあるかもって思ってたから…さっき

いち子 え…

あおい 美佐子お姉ちゃんが残してくれたんかなって

融 え…

いち子と融が走り寄り、あおいが差し出した紙を手にする。

それはクシャクシャになった数枚の紙切れ。

融 美佐子からの…メッセージ？

いち子 あの子こんなに残して…？

あおい 入ってた、この中に。

早乙女 そんな事が…

トム ドラマみたい

融 (紙を一枚一枚読む) 「出会えて幸せ」「ありがとう」

いち子 美佐子…

融 「ずっと一緒にいよう」

ヒロミ 亡くなってからそんなメッセージが

融 もう、ないと思ってきました。…こっちの声も届かへんし、向こうの声だってもう、つて…「また次の花火も一緒に」

いち子 そう、思ってみてたんやな10年前

二人が涙しながら手紙を見ている…何かに気づいた十川が早乙女とトムの方へ

十川 ……あれ

早乙女 え

トム あ

そう、それは先ほどヒロミが書いたメッセージ花火の下書き。

早乙女 ……言わないんですか

トム 本人気付いてないっ

ヒロミは、手紙を見て涙する二人を見てもらい泣きしている。

いち子 融君…どれでもええんやけど、うちにも貰えるかな？

融 あ…

いち子 つて言うか、融君持ってもな

融 え

いち子 ……だって

融 いや…これは、美佐子が僕に

いち子 それはわからんやん

本当は違うのに揉めはじめる二人の様子に、十川はたまらず

十川 言わんと…絶対、これは

早乙女 こわいっ

十川 あ、あのそれって、さつき…

いち子 何？

十川 それ…うん、さつき…な？（ヒロミに）

ヒロミ、涙を拭きながら…気付く。

ヒロミ あ！それ、さつき俺が書いたやつ！？

融・あおい え

いち子 ……何でや

ヒロミ 早乙女工務店さんに、花火でメッセージを送るっての進められて、メモって言うか下書きって言うか

融 あ…え？あ、じゃあコレ美佐子が、僕に、じゃ

ヒロミ 全然違う、俺が、彼女に。…ハハ

いち子、手に持っていた紙をくしゃくしゃに丸めてベランダの外に放り投げる。

続けて、融が持っていたのも取り上げ放り投げる。

あおい ごめんなさい

いち子 いや、うちのアホらが

融 いや、ええ、別に。そんなね、都合のええ事はおきませんよね。現実には。そんな奇跡みたいな。

十川 ホントに、そうですね。

ヒロミ え、でもっ一個は起きてるやんっ（あおいと十川を指して）

いち子 ええから、捨て来い！散らかしてからっ、近所迷惑になる！

三人、慌ててベランダから出ていく。

十川 あおい。

あおい …私、僕

十川 もうええから。大丈夫やから。

あおい でも、お母さんは喜ぶから

十川 それでも、もうええ。お前は、お前で…

あおい 好きでやってる

十川 そうか

あおい …お父さんは、嬉しくない？また会えたって

十川 …また会えるなら嬉しい

あおい ハハッ！ホラ

十川 でもそうじゃない。そうじゃないやろ

あおい 会いたくないん？

十川 さとしは会えへんやろ、こつちと

あおい …

十川 お前は、さとしじゃないんやから

その言葉を聞かないように、またあおいは笑う。それはさとしの笑い方。

あおい ハハッ！懐かしいよな〜コレ（糸電話）

十川 あおい

あおい ホンマ。ようやったなあ〜！ハハ！やる？また。…でも片方ないんよな〜さつきから探してるけど。

十川、差し出された紙コップ、いや糸電話をあおいから奪うように取る。

融 それは、本物なんですかね？昨日誰かが飲んだやつとかじゃくて

いち子 それは大丈夫やわ。

十川 そうやな、本物や

あおい わかるん？

いち子 あ、せや。この間、夢に出てきた。さとし君。

十川 え

あおい …

いち子 それ見て思い出したわ。何か、一緒に作ってて…起きたら思い出されんかってんだけど、糸電話やったと思う。うん。コップの底にどうやって穴開けるかって相談してた。

十川 それで、それでさとしは、何て

いち子 あ…それで目え覚めてもたから。

十川 そうか…糸電話を。じゃあ小さい頃の

いち子 そうやな、そうやった。一緒にキャンプ行ってた頃の、そうそう、キャンプ場のテーブルやった。

十川 そうか、そんなところで糸電話。

あおい …夢の話やで

十川 元気そうやったか？他にどんな話

あおい お父さん

十川 服はあれか？ようあいつが来てた緑の

いち子 服までは…そうやったかな

十川 キャンプって言うたらアレやったから

あおい 夢の話やって

十川 わかってる。

あおい 夢の話やのに

十川 わかってるんや！

十川、力なくそばにあった椅子に座りこんでしまう。

あおい ……そんなんやから、心配で。

十川 ……

あおい でも大丈夫！ハハッ！お父さん、明日。ちよつと薬になる薬あげるから。

十川 え

あおい いち子お姉ちゃんに教えてもらった。

融 え……それってヤバイやつ

いち子 んなわけないやろ

十川 明日…。

あおい そう。でも明日になったらまた明日って。明後日になっても、また明日。また明日また明日また明日って

十川 貰われへんやないか、ずっと

あおい ううん、それが効いてくるから。だから今日は頑張つて。そうやって。でも、でもな、それたまにめっちゃ効果が薄れる日とか、時間もあるつて。夜とか。やつぱり。でも。それしかないって。それしかないねんて。一気に過ぎてくれたええけど、知らんうちに、寝てるうちに。でもそれやと大福アンパンも貰われへんし。だから、ホンマ。それしかないから。しゃーないって。今はこんな…やけど。それが効くから、効いてくるから。だからあげるから！

こみ上げてくるものを押さえながら必死で父親に、自分自身に話すあおいの様子をみて、十川。

十川 ……お前はええんか

あおい え

十川 その薬、お前はええんか？

あおい ……

十川 お前も、いるやろ。あおい。

あおいの腕をしつかりと握る十川。

あおい わからん、私、わからん。

十川 お前にもまだ全然効いてないやろ、その薬。

あおい ……欲しい。私も欲しい。

十川 一緒に

あおい …でもお母さん

十川 さつき、探してた。お前を。

あおい 私？さとしじゃなくて？

十川 あおいを、お前をや。

あおい …

十川 だから、一緒にや、今日から一緒に。

あおい …

二人の様子に、じっと聞いていた融が進み出る。

融 カレンダー。来年の。早く買った方がいいですよ。

十川 え

融 3年手帳とか5年手帳とか。10年手帳でもいい、あるから、そんなん今。それ買って、それ見てね、時間が経ったときの事想像するんです。行事とか目途にしたり、何やったら書いてもいい。嘘でもいい。

あおい それも買おう、お父さん。買おう。

十川 そうやな

あおい お母さんにも教えてあげよう。私、ええの選んでくるから。駅前のお店で。選んでくるから

十川 いや、一緒に買いに行こう。明日。

あおい …うん、うん。

十川 (融に) ありがとう(ぎ)います。

融 いえ、そんな。はい。

融へしっかりと頭を下げる十川の背中に…

あおい …着替えてくる。

十川 せやな

あおい もう、この格好じゃなくても一緒に、花火見れる。

十川 うん。コレ。(糸電話を差し出す)

あおい (受け取って) お母さんにも見せてくる。

あおい一礼して、ベランダから去ろうとして、いち子の前で止まる。

いち子、涙を隠しながらあおいに「行き」と促す。

十川 時間が経てばって、色々変わるって、この家の人たちみてこの10年かけて、わかってたはずなのに。自分の事になつたら…全然で。子供にまで心配かけて

いち子 そりゃわからんって。別に嫌味じゃなくて、所詮他の家の遠くの事やから。昔さ、美佐子亡くなって三年経つのに、友達から美佐子宛てに年賀状届いててさ…腹立った。だってこっちにしたら家族亡くなってんねんで、めっちゃ大きい事やん、でも…やっぱり遠いとわからんし、忘れるし。

融 …寂しい話ですけどね。

いち子 お店のDMとかは絶対くるし。そういう時、薬もピタッと効かんようになるし。派手な家電量販店のDM握りしめて哀しなってる私ってって、今思い出したらアレやけど。

十川 …そうか。

いち子 あ、せや美佐子の服整理してたら、あおいにって思うのあったてんけど私着んような…ええかな？融君。持ってたって。

融 もちろん…いいですか？美佐子の

十川 喜ぶわ、そんな

いち子、ベランダから出て行く。

十川 ありがとうございます。大事な…

融 いや、着てもうた方が…美佐子やったら絶対ええって言う。多分。

十川 そうやって、聞いていくしかないですもんね。声。残してくれたもんとか人とか大事に、そつから想像して。

融 そうです。そうでした。今も。

十川 これからそうやって…はい。

融 ホンマに聞こえたらね、ホンマ。聞きたいこと山ほど出てくるし。まだまだこれから、たくさん。ある。

十川 せやろな。

融 僕ね、3年祭の時にね、言うたんですよ。再婚を考えてる相手がおるって。

十川 え

融 そしたら言われました、お姉さんに「え、もう？」って。

十川 …

融 僕が想像してたのと、お姉さんの中的美佐子の声は違つたんでしょね。

十川 え、それでその相手の人とは…

融 結局、うまくいきませんでした。まあ、お姉さんの方は覚えてないと思いますけどね、そんな事言うたの。

十川 …恨んでるとかじゃ

融 そういうのはちよつと違って…。亡くなった人との距離は…自分だけのもんなんやつて。今でもわかりません。もうなんか、まだなんか。やつとなんか。

十川 もうか、まだか…やつとか…

トム ちよ、ちよつとこれ見てっ

その時、ヒロミとトムが押し合いながら賑やかにベランダに帰ってくる。

ヒロミ (ベランダを見まわして)…あれ？あの子は？あおい君。

十川 あおい…「君」な。

ヒロミ はい。

十川 あおい君は、もうおらん。

ヒロミ (天を仰ぐ)

融 え？ほんで、何て？

トム あ、コレコレ！！

トムが、融に紐のようなものを差し出す。

融 …何？これ。

ヒロミ 俺らな10年前の花火大会の時、庭で手持ち花火してて。

十川 ああ…美佐子ちゃんと一緒に

ヒロミ そう！その時に、コレ貰ったん思い出してん。終わった線香花火の先だけちよつと切って紐みたいにあんで

融 美佐子が…

ヒロミ その残骸って言うか、紐の一本やけど。

トム ヒロミが押し込んだ時に紙の間に挟まってたんやろな、側に落ちてて。

融 そうか…

ヒロミ 別にそれ、特別なメッセージとかないんやけど。…別に。あん時の紐ってだけで。でも…ええんかなって思っ

融 (紐を手にして) ありがとう。ええよ、うん。ええ。またこれで、聞ける、美佐子の声。

ヒロミ え…こわい話？

トム ちよ

いち子 あんたら、ちゃんと捨てきたんか。

また別の服に着替えたいち子が戻ってくる。

ヒロミ 拾ろた拾ろた。し、お土産も

融 コレ（紐をみせる）

いち子 何それ…ゴミ？

いち子のザンない言葉に、皆笑ったりアイコンタクトをしたり…

いち子 何よ、気持ち悪い。（紐を改めて見て）あ！それアレや。一昨日近所の子呼んで花火した時にお母さんが作ったやつ。

線香花火の残りでな「おさげ！」とか「はなげ！」ってやってたわ。え？なんで持ってきたん？そんなん。

融 …。

融、持っていたその紐をぐちゃっとして、ベランダの外に放り投げる。

その様子に、ヒロミとトムは苦笑いするしかない。

いち子 何？何なん？…あれ？ちよっと、あの人は工務店、早乙女工務店。

トム あ！ああ、俺がさ、メッセージ花火のお金払ったら、急いで帰って行った。

いち子 え！？

トム ホラさ、何か今日はやっぱり記念やなって思っつて。ちよっとヒロミと、皆に送るメッセージを考えて。

ヒロミ 今日さ、なんかいらん事もしたし…それで俺らなの。二人で払った、特別割引してくれて15文字で、5万8千円。

いち子 アホやつ。

二人 え？

いち子 詐欺やってん。ひらがなの打ち上げ花火なんてないもん、今はまだ。

二人 えっ！！

ヒロミ 5万8千円は！？

いち子 かえってくるかいな。一応警察行ったら？

トム 最悪や最悪やヒロミのせいや、最悪や

ヒロミ アホ、お前かって

融 (揉める二人に) はは!

二人 …。

十川 あ、そうや、後で来ることになったから、うちの娘。

トム え、いや〜

ヒロミ 照れんなや。えつと名前、何でした?

十川 … あおい

ヒロミ あおいちゃん

トム … え? あおいつて… 兄弟で同じ名前?

ヒロミ 珍しいですね。

いち子 ホンマ、アホ丸出しやなんたら

トム けど腹立つわ5万8千円〜

ヒロミ せつかく考えたメッセージもなしか

十川 次の花火の時は、ひらがなメッセージ花火も出来てるかもな

ヒロミ 10年後か…

いち子 10年後ちゃうで、次の花火大会

十川 あ、決まりました?

いち子 小さい街やしな。予算とか準備の都合で10年に一度やったけど。やっぱりもっとやりたいって話もずっと出てて… だから5年後つて。次はそんなに遠くない。

融 5年後

ヒロミ 30や、俺。いち子姉ちゃんは?

いち子 35

トム いや、逆行してるし

ヒロミ 結婚してるかな5年後

トム ゆうき… ちゃん、と?

ヒロミ … 電話かけたけど、折り返しまだない。俺はええねん、いち子姉ちゃん、な? 結婚してるかな

トム てか、何で結婚せえへんかったん

いち子 …。ご縁がなかったからです。

ヒロミ 何それ

いち子 いらん事言わん方がええねん。すぐ言うてまうからな、私。いらん事言わんようにしてるねん。もう。

ヒロミ まあまあ言うてると思うけど。

トム ほんでさ、今日どんなけ着替えるん？

いち子 ……

トム なに？

ヒロミ いらん事いわんのちゃう？

その時合図の花火が上がる。

ベランダからそれを見る一同。

ヒロミ アハハ！全然見えへんし。明るいのにもう？

いち子 合図合図。今日花火あるよって合図の煙だけの花火やないの。

ヒロミ ああ…

いち子 ホラ、準備準備！プールどけて椅子並べて。

花火を見る準備に取り掛かる一同。

融 ……どんな5年でしょうね

いち子 この10年よりは楽かな。ま、わからんけど。

十川 ウチはこつからの…やな。でも、5年後想像するのは…ええな。

ヒロミ あっ！！（着信に気づく）

ヒロミ、彼女からの着信画面を見て喜んで電話に出る。

それを冷やかしながらも、喜ぶトム。

花火があがる。

あの時と同じように、花火があがる。

花火を見る為に、美佐子のワンピースに身を包んだあおいがベランダに戻ってくる。

ヒロミとトムはその様子に驚きつつ…ワンピース姿のあおいに見とれる。

あおいのワンピース姿を見て、喜ぶ十川。

改めて融といち子に頭を下げる親子。

また、花火があがる。

あおいが、持ってきた糸電話を見せると…

この日ずつと持ち歩いてきた紙袋から自分も糸電話を取りだす十川。

花火と一緒に見る為に持ってきた息子の遺影と、片方の糸電話がその紙袋には入っていたのだ。  
驚くあおい。

父がもう片方を持っていた…。大切に。

あおい、試したくなり、持っていた糸電話を口にあて隣に見える自分の家のベランダに向かう…  
そんなあおいに

十川　もう、こっちからの声は届かへん。

その言葉に哀しくなるあおい…糸電話に目を落とす…と

十川　でも、向こうからの声は届く。

十川、糸電話を口ではなく、耳にあてる。

声を聞くように…

残してくれた声を聞くために。

あおいも、父を真似、同じように糸電話を耳にあてる。

もちろん、声を聞くために。

また、花火があがる。

糸電話を耳にあてながら、花火を見上げる親子。

あの時一緒に見た花火。

聞こえて来る声がある。

そして、

きつと

5年後にも花火があがる。

それはそんなに遠い事じゃないかもしれない。

ここからの、次の5年は。